

国語総合（1学年）
シラバス

国語総合	単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科 第1学年 1～6組	授業担当者	1学年
------	-----	-----	----------	---------------	-------	-----

1 学習の到達目標など

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 論理的な文章の構成や展開に注意して、内容を理解し主題を的確にとらえる。必要に応じて要約することができる。 文学的な文章に描かれた人物・情景・心情などを、表現に即して読み味わい、的確にとらえる。 文や文章の組み立て、語句の意味・用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。 目的や場に応じた話し方や言葉遣いを身につけるとともに、さまざまな表現方法や伝達方法を的確につかむ。 常用漢字が読め、主な常用漢字が正確に書けるようになる。 文語のきまり（歴史的仮名遣い、用言・助動詞の用法、係り結び、敬語法、音便等）を理解する 訓読のきまり（訓点、書き下し文）を理解し、漢文特有の表現に親しむ。 	使用教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・大修館書店 「精選国語総合 新訂版」 (国総346) ・「精選国語総合 新訂版 学習課題ノート」 大修館書店 ・「クリアー国語便覧」 数研出版 ・「新訂五版 完全マスター古典文法」 第一学習社 ・「完全マスター古典文法 準拠ノート 基礎固め」 第一学習社 ・「漢文必携四訂版 チェックノート 基本編」 桐原書店
---------	--	----------------------	---

2 評価の観点、及び内容

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の内容	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しかけたり聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・感想文などの作成した文章 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査
-------	--	--	---	---	--

3 学習計画、及び評価規準など

※「主な評価規準の具体例」の欄に示した「学習指導要領の指導事項（主として該当するもの）」については「話すこと・聞くこと」→A、「書くこと」→B、「読むこと」→C、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」→伝国 と略記した。

※「関心・意欲・態度」の観点については、各能力（または「知識・理解」）の評価規準に示した内容に、取り組もうとしているということの評価規準とする。

※「備考」欄には、次の内容が入る。1 学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連／2 図書館やICTの活用など／3 副教材の使用など

学期	月	時数	単元名 単元目標	教材名	学習内容 【言語】-単元で取り上げる言語活動	主な評価規準の具体例	備考	
						[話]-話す・聞く/[書]-書く/[読]-読む/[知]-知識・理解 〈評価方法〉 学習指導要領の指導事項(主として該当するもの)		
1 学 期	4 5	1 5	1 評論 ▼評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	※教科ガイダンス				
				挑戦 尋ねあい	1 人間がなぜ挑戦を行うかについて、考えながら通読する。(手引き1) 2 キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 挑戦が人生においてどのような意味を持つと捉えているか、をまとめる。(手引き3・4) 【言語】 挑戦について考えたことを、具体例を挙げながら話し合う。	[読] 筆者の考える「挑戦」について理解している。(記述の確認/定期考査) [知] 常用漢字の読み書きや難解な語句の意味を理解している。(定期考査) -Cイ・伝国イ(イ)・ウ(ア)	・前見返し・単元扉の写真を資料として活用する。	
				1 古文入門 ▼古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。	古典の魅力 ねずみの婿取り	1 古文の仮名遣いに注意しながら音読する。(手引き1・古文学習のしるべ1) 2 兄とその周囲の僧たちの心情の変化を読み取り、話のおもしろさを味わう。(手引き2・3)	[読] 心情の変化を読み取り、話のおもしろさを味わっている。(記述の確認/定期考査) [知] 歴史的仮名遣いについて理解している。(記述の確認/定期考査) -Cイ・ウ・伝国ア(ア)・(イ)	・補助教材として文法書を活用する。
		5 2	▼説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	兄のそら寝	1 出来事と登場人物のの心情を読み取り、この話～読み取れる教訓について考える。(手引き1・2) 2 用いられている語の品詞と活用について理解し、古語辞典の引き方を知る。	[読] 出来事と心情を読み取り、人々のこの話の受け取り方を理解している。(記述の確認/定期考査) [知] 古語の品詞と活用を理解しており、古語辞典を適切に使用している。(行動の観察/記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。	
	6	5 3		絵仏師良秀 今昔物語集	1 出来事と登場人物のの心情を読み取り、この話～読み取れる教訓について考える。(手引き1・2)	[読] 出来事と心情、良秀の絵仏師としての姿勢を読み取っている。(行動の観察/記述の確認/定期考査)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。	

				2用いられている語の品詞と活用について理解し、古語辞典の引き方を知る。	[知]歴史的仮名遣いについて理解している。また適切な現代語訳を作っている。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)		
	2	1 漢文入門 ▼訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。	訓読の基本(訓読)	1 二字熟語を例に、漢文の基本的な構造を考える。(手引き1) 2 熟語をもとに、訓点(送り仮名・句読点・返り点〔レ点・一・二点])の知識を確認する。(手引き2)	[知]漢文の基本的な構造を理解し、訓点の知識を身につけている。(記述の確認) -伝国ア(ア)・(イ)	・適宜、ワークシートを活用する。	
	1	▼格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。	訓読の基本(格言1)	1 格言の現代語訳をする。(手引き1) 2 返読文字の知識を確認する。(手引き2)	[知]返読文字の知識及び種類を理解している。(記述の確認/定期考査) -伝国ア(ア)・(イ)		
	1		訓読の基本(格言2)	1 訓点に従って、訓読できるようにする。(手引き1) 2 書き下しの知識を確認する。(手引き2) 3 日本のことわざをもとに、同義の中国の格言を使って、返り点と送り仮名の知識を確認する。(手引き3)	[知]書き下し文のきまりと置き字の用法及び訓点をつけることについて理解している。(記述の確認/定期考査) -伝国ア(ア)・(イ)		
	2		訓読の基本(再読文字)	1 再読文字に関する書き下し文の知識を確認する。(手引き1) 2 再読文字の知識をもとに、漢文に返り点と送り仮名を付ける。(手引き2)	[知]再読文字に関する知識を理解している。(記述の確認/定期考査) -伝国ア(ア)・(イ)		
	7	4	故事成語一二編	1 「訓読の基本」で学んだ知識をもとに、書き下しをする。(手引き1) 2 キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 故事成語の意味を確認し、短文を作る。(語句と表現1)	[読]故事成語の意味に関わる内容について正しく理解している。(記述の確認/定期考査) [知]訓点に従って正確に訓読するとともに、書き下し文のきまりを理解している。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・辞書(漢和・国語)や便覧を適宜使い、故事成語の意味、現在の使用例を確認させる。	
	3	2 寓話 ▼話の構成や展開を確かめ、寓話の内容や表現の仕方について理解する。	寓話(借虎威)	1 句法を確認し、「訓読の基本」で学んだ知識をもとに、書き下し及び現代語訳をする。(手引き1) 2 故事成語の意味を確認し、現在の用法を理解する。(語句と表現1)	[読]故事成語の意味に関わる内容について正しく理解している。(記述の確認/定期考査) [知]句法の知識を確認し、訓点に従って正確に訓読するとともに、書き下し及び現代語訳することができる。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・辞書(漢和・国語)や便覧を適宜使い、故事成語の意味、現在の使用例を確認させる。	
2 学 期	9	7	2 小説 1 ▼小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して読み味わう。 ▼登場人物の心情の変化について、場面の展開に即して考える。 *登場人物の発言について討論する。	羅生門 小説の読み方	1 時代背景を確かめながら、本文を通読する。(手引き1) 2 場面の変化に基づいて全体を部分に分け、それぞれの場面での下人の行動と心理の移り変わりを整理する。(手引き2) 3 キーワードに注目し、本文を読み取る。(手引き3) 4 老婆の言葉について、その主張をまとめ、そこから導かれた下人の行動について話し合う。(手引き4・5) 【言語】老婆(下人)の発言についてどう考えるか、討論する。	[読]登場人物の性格・心理・行動を読み取っている。(記述の確認/定期考査) [知]小説に使われる比喩表現や情景描写、また慣用句の使い方を理解している。(定期考査) -Cイ・伝国イ(ア)・(イ)	・「図説国語」(p.218)を活用する。 ・「言語活動編」(p.198)を参照する。 ・「文学への扉1」(p.36)「小説の読み方」(p.221)をまとめおよび発展として活用する。
	10	3	2 随筆 ▼古文の表現の特色に注意して、内容を読み取る。	徒然草 つれづれなるままに これも仁和寺の法師	・作者の法師に対する評価とその理由を読み取る。(手引き1)	[読]作者の法師に対する評価とその理由を読み取っている。(記述の確認/定期考査) [知]歴史的仮名遣いについて理解している。また適切な現代語訳を作っている。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。
		4		高名の木登り	・記されている人物相互の関係と、それぞれの人物の行動を読み取る。(手引き1) ・この木登りに対する作者の心情を読み取る。(手引き2・3)	[読]人物相互の関係と、それぞれの人物の行動を読み取っており、この木登りに対する作者の心情を理解している。(記述の確認/定期考査) [知]歴史的仮名遣いについて理解している。また適切な現代語訳を作っている。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。
		4	3 唐詩 ▼唐詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。 ▼描かれた状況や心情を考えながら、それ	唐詩――十首	1 「自然」「友情」「人生」の章立てを意識しつつ、各詩について、それぞれどのような状況がうたわれているかをまとめる。(手引き1) 2 「自然」「友情」「人生」の章立てを意識しつつ、各詩について、それぞれどのような心情がうたわれているかをまとめる。(手引き2) 3 「自然」「友情」「人生」の各詩について、それぞれの詩形・押韻を確認する。(手引き3)	[書]理解した詩の内容を、自分の言葉で訳詩として表現している。(記述の確認) [読]各詩がうたわれた状況・各詩に描かれた状況及び各詩にこめられた作者の心情について理解している。(記述の確認/定期考査) [知]詩形・押韻といった「近体詩のきまり」や、「対句」という表現技法について理解するとともに、語句の意味を理解している。(記述の確	・辞書(漢和)を適宜使い、唐詩の現代語訳を試みさせる。 ・適宜、ワークプリントを活用する。 ・便覧などを適宜使い、時代背景につ

		それぞれの詩や文を読み味わう。	■言語活動3 訳詩を書く	4 「自然」「友情」「人生」の各詩から1詩ずつ選び、それぞれ暗唱する。(手引き4) 5 「自然」「友情」「人生」の各詩から対句を抜き出し、対句の構造を確認する。(語句と表現1) 【言語】 1 訳詩の表現上の特質を整理し、意見をまとめる。(課題1) 2 十首のうちから一首を選び、「春暁」の訳詩を参考にして、訳詩を作る。(課題2)	認/定期考査) 適切な語句を用いて訳詩を作っている。(記述の確認) -Bウ・Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	いて調べさせる。
	4	4 史話 ▼史話に描かれた情景や人物の心情などを表現に即して読み味わう。 ▼話の展開に沿って、登場人物の言動や心情を考える。	先従隋始	1 漢文に頻出する基本的な語彙の意味に注意しながら、現代語訳する。(手引き1) 2 登場人物の発言に注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 登場人物の行動をとおして、文脈を整理する。(手引き3) 4 漢文読解のための基本語を確認する。(語句と表現1)	【読】登場人物の取った行動の理由について、登場人物の発言内容から心情を理解し、文脈を整理している。(記述の確認/定期考査) 【知】漢文に頻出する基本的な語彙の読みと意味とを確認し、正しく訓読するとともに、現代語訳している。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	・辞書(漢和)を適宜使い、現代語訳を試みさせる。 ・適宜、ワークプリントなどを活用する。 ・便覧などを適宜使い、時代背景について調べさせる。
11 12	5	1 評論 ▼旅が持つ意味、日本と西洋の文化の違いについて理解を深める。 *テーマを決めて、二分間程度のスピーチをする。	水の東西 ◇思考への扉1 文化の東西 評論の読み方	1 「鹿おどし」と「噴水」の違いに注意しながら通読する。(手引き1) 2 キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 「鹿おどし」と「噴水」の違いを整理し、筆者の考える日本人の感性についてまとめる。(手引き3・4) 【言語】日本文化について興味や関心を持ったことをスピーチする。	【読】対比されている東西文化の違いについて読み取っている。(記述の確認/定期考査) 【知】常用漢字の読み書きや難解な語句の意味を理解している。(定期考査) -Cイ・伝国イ(イ)・ウ(ア)	・「言語活動編」(p.192)を参照する。 ・「思考への扉1」(p.20)「評論の読み方」(p.219)をまとめおよび発展として活用する。
	5	3 評論2 ▼評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	動的平衡としての生物多様性	1 「生命」という存在について、筆者の考えをたどりながら、通読する。(手引き1) 2 キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。(手引き2・3・4・5) 3 「生命」の定義について、筆者はどのように述べているかまとめる。(手引き6) 【言語】「生命」ということについて、体験をもとに、本文を読んで考えたことを文章にまとめる。	【読】筆者の考える「生命およびその定義について理解している。(記述の確認/定期考査) 【知】常用漢字の読み書きや難解な語句の意味を理解している。(定期考査) -Cイ・伝国イ(イ)・ウ(ア)	・同様の題材について扱った、筆者の他の文章を発展として活用する。
	6	3 物語 ▼古文に描かれた内容を、叙述に即して的確に読み取る。 ▼想像力をはたらかせながら、物語の世界を読み味わう。	竹取物語 なよ竹のかぐや姫 ◇古文の窓2 月と暦、そして古典 古文学習のしるべ4	1 かぐや姫や天人が人間を超越している様子がどのように描かれているかを読み取る。(手引き1・2) 2 この話に表されている当時の人々の思いについて話し合う。(手引き3) 1 古文を読むときに月や暦について注意すべき点について知る。(参考・古文の窓2) 1 古文で用いられる敬語の大体について理解する。(古文学習のしるべ4)	【読】天人たちがどのように人間を超えているかを読み取っている。(記述の確認/定期考査) 【知】古文の敬語の概要について理解している。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。
3 学 期	1 1 2		伊勢物語 芥川	1 この話の男と女の境遇と、起きた出来事、そのときの人物の心情を読み取る。(手引き1・2)	【読】男と女の境遇と出来事、心情を読み取っている。(記述の確認/定期考査) 【知】歴史的仮名遣いについて理解している。また適切な現代語訳を作っている。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。
	4	▼登場人物の言動から、寓話にこめられた意図について考える。	寓話一三篇 (漁父之利)	1 句法を確認し、「訓読の基本」で学んだ知識をもとに、書き下し及び現代語訳をする。(手引き1) 2 比喩に注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 恵王の行動を通して、蘇代の主張を読み取る。(手引き3) 4 故事成語の意味を確認し、現在の用法を理解する。(語句と表現1)	【読】故事成語の意味に関わる内容について正しく理解している。(記述の確認/定期考査) 【知】句法の知識を確認し、訓点に従って正確に訓読するとともに、書き下し及び現代語訳することができる。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	
	4		寓話一三篇 (朝三暮四)	1 句法を確認し、「訓読の基本」で学んだ知識をもとに、書き下し及び現代語訳をする。(手引き1) 2 キーワードに注目し、本文を読み取る。(手引き2) 3 故事成語の意味や使われ方を確認し、現在の	【読】故事成語の意味に関わる内容について正しく理解している。(記述の確認/定期考査) 【知】句法の知識を確認し、訓点に従って正確に訓読するとともに、書き下し及び現代語訳することができる。また、故事成語の語源などについて理解している。(記述の確認/定期考査)	

			用法を理解する。(語句と表現1) 4 故事成語のいわれや意味を調べる。(語句と表現2)	-Cイ・伝国ア(ア)・(イ)・イ(ア)		
2		◇漢文の窓1 漢文の中での「名前」	1 漢文でよく用いられる呼称について、整理する。	[知]漢文に登場するさまざまな名前について、興味・関心を持っている。(行動の観察) -伝国ア(ア)		
4	4	6 物語 ▼構成や展開を確かめながら、文章を読み取る。	平家物語 祇園精舎 木曾の最後	1 この作品は、誰のどのようなことについて、どのような人の立場から書かれているのかを読み取る。(手引き1・3) 2 歴史的事実として記されている内容と、文学的な表現について考える。(手引き2)	[読]筆者がどのような意図で、物語を書こうとしているのかを読み取っている。(記述の確認/定期考査) [知]歴史的仮名遣いについて理解している。また適切な現代語訳を作っている。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・(イ)	・補助教材として文法書と古語辞典を活用する。
3	6	5 思想 ▼古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。 ▼孔子や孟子が理想としたものは何かを考える。	論語一七章	1 「学問を語る」の三章について、各章の内容を理解するとともに、孔子の「学問観」についてまとめる。(手引き1) 2 「人生を語る」の三章について、各章の内容を理解するとともに、孔子の「人間観」についてまとめる。(手引き2) 3 「政治を語る」の三章について、各章の内容を理解するとともに、孔子の「政治観」についてまとめる。(手引き3) 4 句法が用いられている箇所を発見し、現代語訳する。(語句と表現1) 5 『論語』が出典となった四字熟語をもとに、四字熟語への理解を深める。(語句と表現2)	[読]「学問」「人生」「政治」という視点に基づいて、孔子の思想を理解している。(記述の確認/定期考査) [知]「巧言令色」の意味を理解し、反対の意味を持つ四字熟語を調べ、理解している。(記述の確認/定期考査) -Cイ・伝国ア(ア)・イ(イ)	・便覧などを適宜用い、孔子について理解させる。 ・辞書(漢和)を適宜用い、現代語訳を試みさせる。 ・適宜、ワークプリントなどを活用する。